

人生の

最期まで

のぞむ暮らしを続ける

ことがで

地域を目指して



聴講者の声



現在の日本では、終末期において「分一秒でも長く生きることを最とする医療が行われることが多い。一方で、無理な延命・延命はおこなわず、苦痛を最小限に自然な亡くなり方を果たする医療もある。講師の永井康徳先生はそのような「自分らしい生き方」逝きかた、住み慣れた場所での看取りを支える在宅医療」を実践しておられる医師である。その永井康徳先生の終末期医療に対する考え方と実践している内容を講演することにより、新築田市民が近親者や自分の最期の有り方について思い、「最期まで自分らしく生きること」について考える契機になることを期待します。全ての人が当事者となるテーマです。ひとりでも多くの市民の方に聞いていただくことを願います。

市民公開講演会

講師 永井康徳 先生略歴

日時：令和2年3月29日(日曜日)午前10時～12時

中止

1992年 愛媛大学医学部卒業後、愛媛大学医学部附属病院、自治医科大学地域医療学教室を経て、愛媛県南部の明浜町(あけはまちょう)国保診療(たわらづ)診療所所長に就任。

2000年 在宅医療専門診療所「たんぼほクリニック」を愛媛県松山市に開業。2012年～市町村合併の余波で閉鎖となった愛媛県南部のへき地診療所を西予市から民間委託して引き継ぎ、医師複数体制でのチームで循環型地域医療を実践している。

在宅医療に関する多くの著書があり、年間50回以上の講演を全国で行っている引っ張りだこの講師でもあります。